リウマチ

Newsletter of Japan College of Rheumatology

NEWS LETTER 64 December

●巻頭言●

リウマチ性疾患の治療の進歩とその限界……堀内　孝彦

●開業医からの視点●

第2の人生の始め方……北村　公一

●勤務医からの視点●

急性期病院における自己免疫疾患診療の利点と難しさ……押領司　健介

●ニューリーダーの抱負●

臨床の現場と基礎研究の橋渡しを目指して……佐藤　浩二郎

●Message from Next Generations●

整形外科リウマチ医の面白さ……根本　哲也

●音楽療法士からの声●

リウマチ教室での音楽療法について……山崎　郁子

●ボーダーレス リウマチ学●

災害とリウマチ性疾患……秋元　正樹

●研究紹介 ～奨励賞受賞～●

基礎研究、臨床研究におけるかけがえのない経験を糧に……渡部　龍

●Message from Next Generations●

整形外科リウマチ医の面白さ……根本　哲也

●コラム●

ループス腎炎に対する新規治療薬の期待……廣村　桂樹

●移行期医療検討小委員会からのお知らせ●

森　雅亮

●海外留学体験記●

Feinstein Institutes for Medical Researchに留学して……有沼　良幸

●ACR 報告記●

ACR/ARP Annual Meeting 2019……髙田　秀人

●APLAR2020 のお知らせ●

2020 APLAR in京都に向けて　Vol.2……竹内　勤・山岡　邦宏

一般社団法人
日本リウマチ学会

New Leader's Ambition
ニューリーダーの抱負

臨床の現場と基礎研究の橋渡しを目指して

佐藤　浩二郎　自治医科大学　アレルギー・リウマチ科

本年４月に自治医科大学アレルギー・リウマチ科教授を拝命いたしました。私は東京大学を卒業後、大学病院・虎の門病院で研修し、その後すぐに東大免疫学教室の博士課程に進学しました。そこで分子生物学と古典免疫学の手法を学び、学位を取得しました。一旦は大学病院に戻ったものの、基礎研究をもう少し続けたい欲求がつのり、大学院の先輩であった高柳広先生が東京医科歯科大学でラボを立ち上げる際に手を挙げて参加し、破骨細胞研究、特にTh17細胞と破骨細胞の関わりの解析に従事しました。非常にエキサイティングな経験ができたと思っています。その後埼玉医科大学に移りましたが、三村俊英教授のご配慮により、比較的自分でも手を動かして研究が出来る環境でありました。

自治医大アレルギー・リウマチ科の前任の簑田清次先生は「栃木リウマチネットワーク」という病診連携の会を立ち上げられ、大学病院の外来には４-６ヶ月に1回受診、それ以外は近隣のクリニックに通院という流れを確立されました。これは地域の関節リウマチ診療のレベルを一定水準以上に保つことに大変寄与していると思います。約90カ所のクリニックとのネットワークを作られた蓑田先生のご努力には敬服します。話によるとその背景には大量のお酒とゴルフがあったようです。不調法な私はゴルフをしないため、ネットワークの維持・拡張をはかれるかどうか今から心配しています。

研究に関しては、自治医大の設備はかなり整っています（大型機器に貼ってあるシールに「競輪」とか「宝くじ」などと印字されているのが特徴的です）。近年の急速な膠原病関連の研究や治療の進歩を眼前にすると、楽観的な私などは、もう少しで原因の解明、そして根治が現実のものになりそうだと思ってしまいます。臨床の現場と基礎研究とを結びつけるような仕事に少しでも関われれば良いと考えています。ただし、昨今の大学病院では臨床のデューティーは大きく、自治医大も例外ではありません。そのため基礎研究に集中できるポスドクに参加してもらうことが鍵になるかもしれません。学会の皆様も、もしポスドクのポジションを探しているような方をご存じでしたら、ご教示いただければ幸いです。私はこれまで３つの大学で９人の院生の指導に関わり、今のところ全員が学位を取得しています。自治医大でもその記録を継続したいと思っています。「我こそは」と思う先生の参加をお待ちしています。

日本リウマチ学会の諸先生方におかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。